９　進行管理についてのご意見

＜藤井佳世 委員長＞

進行管理に関する質疑応答を通して、それぞれの事業が事業目的に沿って多様に取り組まれていることが分かりました。多くの事業は、短期間で成果が見えるものではなく、毎年少しずつ進めることのできる内容やその都度対応を必要とする内容などもあり、継続が重要なことも感じました。また、報告書やリーフレット作成がいくつかの事業でなされていますが、それらの効果の検証方法は今後検討していく必要があるように思いました。さらに、様々な取組が活性化するためには、市民に伝わるような方法を検討することも重要だと感じました。

次の事業について意見を述べさせていただきます。

・142「児童生徒指導関係事業」

担任の先生と異なる立場でかかわることのできる児童支援担当教員はとても大切だと感じました。児童生徒の健全育成の事業目的から見ると、中学校と小学校の連携による児童支援体制の充実や地域との連携など、ますます重要になると思います。他市の取組や児童支援担当教員からの声なども反映させながら、さらに児童支援体制の充実を進めてほしいと思います。

・146 「いじめ暴力防止対策事業」

いじめ相談ホットラインといじめ相談メールの取組が分かりました。本事業は、いじめや体罰に対する未然防止を図り、安全な学校生活を送ることを事業目的としているため、これらの取組はとても大切だと思います。それぞれの件数が月に１、２件ということでしたので、子どもたちがより相談しやすい環境づくりを進めてほしいと思います。

・311「特別支援教育整備事業」

児童生徒数の推移から特別支援学級や通級指導教室の設置を検討し、20 人を目安としながら、子どもの実態に沿ったあり方を模索していることが分かりました。特別な教育的支援には、多様な支援のあり方が含まれると思いますので、保護者や専門家とも相談しながら、児童生徒の特性に応じた教育の場の整備という事業目的を着実に進めてほしいと思います。

＜渡邉美子 副委員長＞

進行状況報告書では読み取れない部分を、質疑応答を通してお聞きすることができ、確実な方向に向け様々に工夫しながら努めておられることがよく分かりました。別の事業がそれぞれに補い、関わり合いながら進められている様子を更に知りたくもなりました。

いろいろな背景をもった子どもたちが、自分らしく学べる環境を整えるということは、背景は様々なので、事業としては目標を定めにくいとも思われます。

・142「児童生徒指導関係事業」

子どもたちにとっても、現場の先生方にとっても必要な存在である児童支援担当教諭が小学校全校に配置され、その成果として目が行き届くようになり、細かく対応ができるように

なったとのこと、素晴らしいと思いました。今後担当教諭の負担が大きくなったり、人材の確保が難しくなったりすることを心配するところです。不登校や不登校傾向、いじめ問題などの対応は教職員がしっかりと子どもに向き合う体制であることが必要だと思うので、市をあげての支援体制が必要だと思いました。

・621「子どもの体力向上対策事業」

体力・運動能力テストの実施校数が目標となっていますが、最終的に目指すべきところは、いかに体力を向上させるかであろうかと思います。

体力テストの結果をもとに検討された子どもの体力向上のための方策をもっと具体的に伺いたかったです。市全体として、子どもたちが休み時間にでも体を動かす仕掛けづくりをするなど、体を動かすことを楽しみながら体力ある子どもたちになってほしいと思いました。

＜渡邊泰典 委員＞

進行管理についての質疑応答を通して、多くの事業で目標を達成できるよう担当の方々が努力していることが分かりました。この点につきまして、関係者の皆さまに深く敬意を表したいと思います.

いくつか、質疑の中で気になった以下の事業について意見を述べたいと思います.

・154 「教育指導事務事業（学習指導員による補修授業）」

大学生でも基礎的な学力が身に付いていないことが見受けられます。その点から考えると、補習を必要としている生徒の率はかなり高いのではないかと推測しています。したがって、埋もれてしまっている生徒をどのように見つけていくか、モチベーションの低い生徒をどのように補習へ巻き込んでいくかなどの仕掛けが必要ではないかと考えました。

・335 「学校施設緑化推進事業（芝生化・壁面緑化）」

子どもたちに土のグラウンドだけではなく、芝生の感触も知ってもらいたいと考えると非常に残念なことですが、芝生の養生などの維持管理のコストを考えると縮小もやむなしと考えました。一方で近隣住民を含めてのボランティア活動などを活用したかたちでの維持が可能になるようであれば、そのような取組を後押しするような制度にも期待したいです。

＜伴　瑞穂 委員＞

藤沢市教育振興基本計画では、「未来を拓く『学びの環』ふじさわ」を基本理念に掲げ、様々な事業を実施しています。子どもたちだけでなく、広く多世代にわたる学びを捉え、教育に関する理念と共に、昨今の教育課題にも対応する柔軟性をもち、幅のある魅力的な学びの機会の実現に向けてこれからも真摯に取り組んでいただきたいと思います。質疑応答を通して、実際の事業担当課が、自己評価において「おおむね達成した」のＢ評価が多いことも、真剣に取り組んで下さっている表れであり、納得のいくものだと思いました。

次の事業について意見を述べさせていただきます。

・１４６「いじめ暴力防止対策事業」

「いじめ相談ホットライン」や「いじめ相談メール」の活用により、面談とは異なる方法で思いを発信するツールがあることは保護者にとっても、児童生徒にとっても良いことだと思います。実際の活用数の関しては多くはないとのことでしたが、声をあげにくい方々のため、より多くのいじめを発見するきっかけづくりとして続けていただきたいと思います。様々な媒体を用い、周知の機会を捉えより多くの方々に知っていただきたいと思います。また、「いじめ防止プログラム」や「stop いじめ！中学生の集いｉｎふじさわ」のように児童生徒と向き合っていじめについて考えていく機会も重要であると考えます。真剣に考え、向き合い、他人のことを思いやることのできる教育をこれからもお願いいたします。

・２４４「奨学金給付事業」

広く周知をすることにより、情報を知る機会を増やすよう更なる努力をしていただきたいと思います。実際に給付を受けている学生のフォローとともに、今後給付を希望する学生に、奨学金をどのように利用でき、どのように学生生活を送れているか等、具体的なイメージが持てるような情報提供ができるとよいと思います。今後も、子どもたちの未来に可能性を与えるこの事業を安定して行っていけるようお願いいたします。また、必要な人に届くよう、給付者の選定についても充分な審議をお願いいたします。

１０　点検・評価及び進行管理を通じての教育委員会へのアドバイス

＜藤井佳世 委員長＞

今年度で４年目になりました。とはいえ、一つ一つの事業内容が詳細に分かるわけではありませんので、質問をしながら確認させていただきました。質問をして初めて、それぞれの事業の取組の内容や背景を知ることができます。また、同じ事業でも各委員の異なる関心から質問がなされるため、それに対して詳細な説明がなされることにより、一つの事業でも多様な取組がなされていることも分かりました。そうしたやり取りの中で、新たな質問が浮かんでくるため、点検・評価作業の深さを実感しました。

事業内容はどれもとても大切であり、子どもや市民の生活環境に大きく関わるため、一つ一つしっかりと進め、検証することが大切だと思いました。その際、これまでの実績や取組をどのように検証するのか、という視点と、新しい課題にどのように対応するのか、という視点が重要だと感じました。また、広報の仕方においても、これまでの紙を中心とする方法と別の方法における両者の検証の際には、どのような内容に関する広報であったのか、対象者の特性など、方法の検討だけではなく、内容との関わりからも検証することが必要になるように思いました。さらに、地域の活性化や子どもの学びの充実した環境整備には、ボランティアや多様な世代による関わりなど、人の交流が鍵になるように思います。ボランティア育成や交流活動の企画などは難しいこともあると思いますが、市民の声を取り入れながら参加型の環境整備も進めてほしいと思います。

各事業には、つながりのあるものや重なりのあるものもあり、事業ごとの連携という横のつながりも大切だと感じました。その横のつながりから新たな形が見てくることもあるように思います。

これからも、多様性が尊重される社会に向けて、一人ひとりの市民と子どもが、参加し、自由に学ぶことのできるような環境整備を進めてほしいと思います。

＜渡邉美子 副委員長＞

私は日頃の活動を通じて、地域の若い保護者、保護者 OB・OG の方々、そして地域の子どもを支えたいと熱意をもって日頃から活動されている方々とお話をする機会が多いので、そこで出る話題を通して事業を拝見してしまいます。事業を見させていただく中で、様々な制約の中、事業に取り組む皆さんが、地域の「気になること」として話題に上がっていたような今日的な課題をも大いに念頭に入れて進めていらっしゃることに感心しました。地域も家庭も学校も行政も子どもたちのために今何が必要とされていて、何ができるのか。考えていることは一つでありたいと思います。

一方、生涯学習の分野では学習の機会をどのような人たちが、どのような方向で求めているのかを探りながら、効果的に提供する難しさがあると思います。健康で、前向きに、充実した、人生 100 年時代を迎えるための仕掛けを既成概念にとらわれな

い形で作っていただけたらと思います。

＜渡邊泰典 委員＞

今年度で２回目となる点検・評価作業ですが、慣れないながらに資料を確認する中で、非常に多くの事業によって藤沢市の教育が支えられているのだということを改めて確認いたしました。これらの事業に日頃から関わっている皆様には改めて感謝の気持ちを表したいと思います。

今、関わっている皆様と言いましたが、これらの事業は学校や市の教員・職員だけで成り立っているわけではなく、保護者や地域の人々などのボランティアによっても支えられています。昨今、「働き方改革」というかけ声が先行する中で、現場の教員の忙しさというものにも焦点が当たっておりますが、学校現場の働き方改革を進めるためには、学校や教員が果たす役割を見直すことが急務であると考えられます。そのためにも、学校が家庭や地域と一層連携し、学校がすべきこと、家庭がすべきこと、地域がすべきことについての共通理解を作り上げる必要があるかと思います。

一方で、こうした取捨選択の議論については、現場のリソースというものが常に一定という制約の下にあり、新しいことを始めたければ別のものをあきらめるという形の議論になりがちですが、教育という次世代の市民を育てる事業の重大性を鑑みれば、どのようにして教育現場に投入できるリソースを増やすことができるかを考えることも、また社会として求められているのではないかと改めて考える機会となりました。

このような貴重な機会を与えていただけたことに感謝しております。どうもありがとうございました。

＜伴　瑞穂 委員＞

今年度も点検評価に関わらせていただき、基本理念である「未来を拓く『学びの環』」を軸に、多くの事業に様々な課が関わっていることなど、藤沢の教育について改めて知ることができました。児童生徒だけでなく多世代を視野に入れた事業展開や、多様性を許容する事業展開が今後ますます求められるようになっていくと思います。基本理念を軸に３つの目標、基本方針、施策の柱を意識しながらも、柔軟性のある考え方で、藤沢らしい教育についてこれからも考えていただきたいと思います。

よりよい教育環境には、建物の老朽化解消、ＩＣＴ機器の充実等のハードの面の充実が必須であると考えます。特に、これからの時代を担う児童生徒には義務教育の場で平等に ICT 機器の活用ができるスキルを身に着けられるよう、機会を整備してほしいと強く思います。また、教員の仕事の効率化、事務作業の軽減を図り、児童生徒と向きあう時間や、教材研究を確保していただきたいと思います。安心安全な学校で豊かな心と身体を育んでいってほしいです。

あわせて、学校は義務教育であることから、平等に教育を受けることができ、藤沢の子どもたちの家庭環境や置かれている様々な状況に気が付くことのできる大切な場

所であると思います。子どもたちが未来を創造できるように、教員は信用できる大人であってほしいと願っています。そのために、生活の場である地域と連携し、学校・家庭・地域が支え合い、見守り合える関係を作っていくことが重要です。お互いにできる範囲で重なり合いながら、できないことや、やってもらえないことに焦点を当てるのではなく、できる人が、できることをしていきながら生きていく土壌づくりをしていければよいと考えます。私自身も、PTA 活動や、地域活動において、誰もが、できるときに、できる範囲で関わることのできる雰囲気づくりを心がけ、つながることの大切さを子どもたちに伝えていきたいと思います。

最後に、藤沢の子どもたちが夢を持ち、未来を創造してわくわくする気持ち、達成感を感じる心、自分と仲間を大切にする心、地域を思う気持ちを育む学校教育を行い、無条件に受け入れてくれる親以外の大人としての教員の養成を心から願います。このような機会をくださったことに心より感謝申し上げます。